

報告

FDプログラム・参加者管理システムの作成について

曾田紘二¹⁾ 奈良理恵²⁾ 川野卓二²⁾

¹⁾ 徳島大学名誉教授 ²⁾ 徳島大学大学開放実践センター

(キーワード: 全学FD推進プログラム, データベース, FDライブラリー)

Database of campus wide Faculty Development programs at The University of Tokushima

Koji SODA Rie NARA Takuji KAWANO

Center for University Extension, The University of Tokushima

(Keywords: campus wide Faculty Development programs, database, FD library)

1. はじめに

平成14(2002)年度から開始した徳島大学全学FDは平成22年度で9年目を迎え、この間多くの資料が蓄積されてきたが、未整理のままであり活用できる状態にはなっていない。

今後の徳島大学全学FDの一層の発展のためには、これまでの活動を点検・評価し、その結果を次のプログラムに活かす必要があるが、そのためにはこれまでの資料をデータ化する必要がある。資料のデータ化と点検・評価によって、全学FDのPDCAが一応の完成をみる。

また、資料のデータ化によって、現在行っている作業の省力化・迅速化とともに、将来予想されるアカデミックポートフォリオ導入等の際には、研修履歴の当該教員への提供等、徳島大学教職員に対してさまざまな貢献ができると考えられる。

このような考えから、第1期から第3期まで9年間にわたる全学FD終了年の今年、全学FDデータベースとして「FDプログラム・参加者管理システム」を作成することとした。

なお、このプロジェクトは、平成21~22年度特別経費「徳島大学教育ルネサンス教職員能力開発プロジェクト」によるもので、平成22年3月にシステムを導入した。

また、このデータベース作成にあたっては、米国のブリガムヤング大学(BYU)のものを参考に、独自のデータベースを作成した(資料参照)。

2. 徳島大学全学FD9年間の歩み

2.1. 全学FDの歴史

ここでは、全学FDが現在の形で実施されるようになってからの歴史について、その概略を述べる¹⁾。

平成13年に、当時大学開放実践センターに在職していた森和夫先生から、組織的・実践的全学FDとして「教育革新FDプログラム」(3年間プロジェクト)の提案があり、川上博副学長によってこの提案が了承された。これを受けて、実践的な全学FD推進のため、「全学FD推進プログラム第1期計画(平成14年4月~平成17年3月)」が平成14年2月の大学教育委員会で決定され、平成14年度から平成16年度まで3年間のFD活動の基本方針が示された。さらにこの基本方針に基づいて、年度ごとに「全学FD推進プログラム年度計画」を策定の上、各年度のFD活動を推進することも決定された。徳島大学ではこれ以後、3年間の基本計画及びそれに基づいて各年度の計画を立ててFDを実施するという、現在の形の全学FDを実施している。

また、全学FDプログラムの実施主体については、平成14年に徳島大学・大学教育委員会と大学開放実践センター教員で構成する「FD研究企画ワーキンググループ」が設置され、大学開放実践センター教員が中心となって全学FDの企画・運営・実施にあたることとなった。

平成15年度からは、このワーキンググループは大学教育委員会内の「FD専門委員会」に改組さ

れ、大学開放実践センター長が委員長を務めることとなり、引き続き、全学FDの企画・運営・実施の実務を実践センター教員が担当することになった。

2.2. 全学FD推進プログラム第1期計画 (平成14年度～平成16年度)

全学FD推進プログラム第1期計画の内容を次に掲げる。

(1) 計画の期間

平成14(2002)年度から平成16(2004)年度までの3カ年を第1期計画の期間として設定した。

(2) プログラムの基本的視点と目標

プログラムの基本的視点を次のように設定した。

徳島大学におけるFDは、理念にとどまらず実践的な授業改善活動を迫られている。教育理念を具体的な教育目標に反映させ、実現していくことが求められている。全学FDは、その重要な役割を担う。このプログラムを推進することにより、FDに欠かすことのできない体系性・組織性を生み出し、教員の教育力のボトムアップを図り、参加者が、将来的にはFDの中核的なメンバーとして育つことを期待する。

このような基本方針のもとに、次の3つの目標を掲げた。

- ①理念にとどまらず実践的な授業改善活動を行う。
- ②FD活動に、体系性・組織性をもたせ、全学FDと学部FDの相乗効果を目指す。
- ③参加教員が将来のFD活動の中核的なメンバーとして育つことを期待する。

(3) プログラム内容

第1期で実施したプログラムは次の通りである。

a. FD基礎プログラム

新任教員を対象とし、1泊2日の日程でワークショップと全体討議を行い、徳島大学FD活動の理念についての検討及びシラバス作成、講義計画、教授技術等についての研修を実施した。

b. FDリーダーワークショップ

各部署のベテラン教員に参加を求め、本学におけるFDの理念と課題について討議し、まとめた。基礎プログラムと並行して合宿研修として行った。

c. 授業エキスパート・ワークショップ

各学部及び全学共通教育センターから推薦された授業エキスパート教員と大学開放実践センター教員によって「徳島大学FD推進ハンドブック」²⁾を開発した。

d. FD応用プログラム

FD基礎プログラムを受講した教員を対象として授業研究会を行い、授業の展開力と研究討議の方法を学んだ。

e. FDシンポジウム

常三島キャンパス、蔵本キャンパスの2会場に分けて、当該年度に実施された学部FD、及び全学FDプログラムの成果を発表し、今後の徳島大学FD活動の課題と展望を討議した。また、「徳島大学FD推進ハンドブック」の内容紹介を行った。

(4) プログラムの実施主体

教育を担当する全学的な委員会である大学教育委員会と大学開放実践センター教員で構成するワーキンググループ「FD研究企画チーム」を設けて実施した。

平成15年度からは、上記ワーキンググループを発展的に解消し、大学教育委員会のなかに設置された「FD専門委員会」を中心に、実務を大学開放実践センタースタッフが担当して実施した。

(5) 全学FD推進プログラム第1期の参加者数

平成14年度から平成16年度までの全学FD推進プログラムの参加者数を表1に示す。

表1 全学FD推進プログラム第1期参加者数

プログラム名	14年度	15年度	16年度
FD基礎プログラム	39	24	34
FDリーダーワークショップ ¹⁾		15	12
FD応用プログラム(授業研究会)	45	37	38
授業エキスパート・ワークショップ	22		
FD推進ハンドブック作成ワークショップ ²⁾		20	25
FDシンポジウム	172	116	66
合計	278	212	175

2.3. 全学FD推進プログラム第2期計画 (平成17年度～平成19年度)

全学FD推進プログラム第2期計画を平成17年2月の大学教育委員会で決定した。

(1) 計画の期間

平成 17 (2005) 年度から平成 19 (2007) 年度までの 3 ヶ年を第 2 期計画の期間として設定した。

(2) プログラムの基本的視点と目標

基本的な視点として次の 3 点を掲げた。

① Organizational Development の考え方 (Faculty Dev. + Student Dev. + Staff Dev.)

FD 活動を、教員のみのもと考えずに職員、TA、学生も巻きこんだ徳島大学全体のものとして取り組むこととする。

② FD の日常化

開催回数を増やすと共に、参加しやすい状況を設ける。

③ IT を利用した FD 情報の配信

FD 推進プログラムの内容等をホームページに掲載し、FD 情報を配信する。

目標として次の 3 点を掲げた。

① 職員、学生を巻き込んだ実践的な授業改善活動を行う。

② 学内のよりよい教育実践例を正しく評価し、ノウハウの共有化を図る。

③ FD 推進プログラムへ参加する教員間の連携を強化する。

(3) プログラム内容

第 2 期で実施したプログラムは次の通りである。

a. FD 基礎プログラム

対象教員を、新任教員全員から教育活動歴 5 年未満の教員に変更。ティーチングについての講義と、シラバス、授業計画書及び教材作成のワークを行い、それに基づいて模擬授業を実施した。1 泊 2 日の合宿研修として実施。

b. リーダーワークショップ (Mentor Workshop)

教育経験 10 年以上の教員や各学部で学生の評価が高い教員の中から、他の教員のメンターとなるにふさわしいとして選ばれた者を対象とし、メンター養成ワークショップを行った。1 泊 2 日の合宿形式で実施 (基礎プログラムと並行)。

c. 個別コンサルテーション (Consultation)

FD 応用プログラムを改変した。基礎プログラムに参加した教員及び希望者を対象とし、授業参観の後、ビデオ録画した当該教員の授業をもとに、大学開放実践センター教員が中心となって、授業

改善のためのコンサルティングを行った。

d. FD ラウンドテーブル

授業改善に関心をもつ教職員・大学院生 TA を対象とし、授業改善に関する情報共有やディスカッションの機会を設けた。

e. 徳島大学教育カンファレンス

特色ある授業及び教育改善の試みを発表した。対象者は教員のみならず学生及び事務職員も含むものとした。

f. 『大学教育研究ジャーナル』の継続発行

『大学教育研究ジャーナル』第 3 号以降を発行した。

g. 学生参画型 FD の推進支援

大学教育委員会のもとに設置される学生 WG への直接的・間接的支援を行った。

(4) プログラムの実施主体

大学教育委員会のなかに設置された「FD 専門委員会」を中心に、実務を大学開放実践センタースタッフが担当して実施した。

(5) 特別教育研究経費による「授業研究インテリジェントラボ」の開設及び FD マネージャーの雇用

平成 17 年度から平成 19 年度まで 3 ヶ年の特別教育研究経費により、平成 18 年 4 月に「授業研究インテリジェントラボ」を大学開放実践センター 3 階に開設し、FD 活動の拠点とした。

また、FD マネージャーを雇用し、授業研究インテリジェントラボの運営及び全学 FD のマネジメントに当てることとした。

(6) 全学 FD 推進プログラム第 2 期の参加者数

平成 17 年度から平成 19 年度までの全学 FD 推進プログラムの参加者数を表 2 に示す。

表 2 全学 FD 推進プログラム第 2 期参加者数

プログラム名	17 年度	18 年度	19 年度
FD 基礎プログラム	19	21	34
FD リーダーワークショップ	11	14	12
授業コンサルテーション・授業研究会	44	45	78
FD ラウンドテーブル	48	55	41
大学教育カンファレンス	79	64	123
合計	201	199	288

(7) 教員研修義務化への対応

平成18年度からの大学院FD義務化に続いて、平成20年度からは大学設置基準が改正され、第二十五条の三に「大学は、当該大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。」と定められ、学士課程におけるFDが義務化され、それに対する対応が求められた。

2.4. 徳島大学FD推進プログラム第3期計画 (平成20年度～22年度)

第3期計画では「全学FD推進プログラム」を「徳島大学FD推進プログラム」と改称した。

徳島大学FD推進プログラム第3期計画を平成20年2月の大学教育委員会で決定した。

(1) 計画の期間

平成20(2008)年度から平成22(2010)年度までの3ヵ年を第3期計画の期間として設定した。

(2) プログラムの基本的視点と目標

FD推進プログラム第3期計画では、FD義務化にともなって実施組織とプログラムを抜本的に見直し、真に全学的なものに改変した。

FD組織について次のような見直しを行った。

- a. 全学FDと部局FDの連携を強化し、全学FD、共通教育・学部・大学院FDを一元的に、大学として組織的FDを実施することとした。
- b. 徳島大学FD実施の中核組織としてのFD専門委員会を一層充実させるために、平成19年度より委員会を定例化し、実質的な討議の場とした。また、平成20年度からはすべての学部にFD委員会を設け、FD専門委員会委員を学部FD委員会の委員長又はそれに代わるものとした。
- c. FD専門委員会は、全学FD、共通教育FD、学部FD、大学院FDについて情報及び意見交換し、連携プログラムを企画・実施することとした。

(3) プログラム内容

第3期計画の基本方針に基づいて、次のようなプログラムを実施することとした。

① 全学FD

- a. FDファシリテーター養成研修
学部FD委員会委員(各学部2名以上)を対象

とし、部局等でFDを実施するためのFDファシリテーターを養成する。1泊2日の合宿によって実施した。これまでのリーダーワークショップをバージョンアップさせた。

b. 共通教育をテーマとしたFD

授業研究インテリジェントラボ等を会場として学内で実施した。プログラム内容としては次のようなテーマを取り上げた。

- ・共通教育における教授法の検討と研修 (Active learning や Writing skills などの基礎的スキル養成の手法など)
- ・成績評価法について検討
- ・レクチャーとワークショップ、グループディスカッション及び共通教育担当者対象の個別コンサルテーション・授業研究会の実施など

c. 共通教育FDととくセミナー

共通教育担当者及び希望者を対象に、特定の教育技術、例えば学生の能動的学習 (Active learning) や e-learning について勉強会を行った。

d. FDラウンドテーブル

第3期計画では教育技術だけでなく、教材開発、新科目創設なども話題とし、また、予算、財務、教員倫理など、大学を構成している要素すべてを含めた内容とした。

e. 教育カンファレンス

特色ある授業及び教育改善の取り組みを発表する機会とし、対象者は教員、職員、学生とした。

f. 『大学教育研究ジャーナル』発行

『大学教育研究ジャーナル』の継続発行。

② 学部・大学院FD

各学部、研究科又は各教育部は学部・大学院FDについて次年度計画を作成、公表し、テーマ、プログラム等は部局のニーズに合わせて部局で検討することとした。

(4) プログラムの実施主体

大学教育委員会のなかに設置された「FD専門委員会」を中心に、実務を大学開放実践センタースタッフが担当して実施した。

平成20年度からは全学部にFD委員会を設置し、学部のFD専門委員を、学部FD委員長またはそれに代わるものとした³⁾。

(5) 第3期計画におけるその他の事業

第3期計画におけるその他の事業として次のことを計画した。

① FD情報の共有と発信を進め、そのためのITインフラを整備する。

FDホームページを拡充し、徳島大学FDについての情報をホームページ上で共有できるようにするとともに学外に発信する。

② FDの効果検証方法の開発

全学FDも第1期、第2期プログラムを実施し、効果検証すべき時期に来ている。そこで第3期計画の一環としてFDの効果検証方法の開発に取り組む。

③ FD・SD (Staff & Student Development) の協働

学生をFD活動に組み込み、また職員との協働を進める。

④ FD参加認証制度の検討

組織的FDの実施義務は大学に課せられているが、同時に参加者への認証制度と参加インセンティブを検討する。

⑤ FDセンターの設置

授業研究インテリジェントラボにFDセンター

の機能をもたせ、学部等FDへの支援体制を整備する。

(6) FD推進プログラム第3期の参加者数

平成20年度から平成22年度までのFD推進プログラムの参加者数を表3に示す。

表3 FD推進プログラム第3期参加者数

プログラム名	20年度	21年度	22年度
全学共通教育担当教員 初任者研修	14		
教育力開発基礎プログラム		30	45
FDファシリテーター養成研修	24	38	34
授業コンサルテーション・授業研究会	29	40	122
FDラウンドテーブル	45		
FD・SDラウンドテーブル		47	
FD・SDセミナー			73
FDとくどくセミナー	64	52	
大学教育カンファレンス	112		
大学教育カンファレンス in 徳島		99	117
合計	288	306	391

3. 年度別実施プログラム一覧

第1期から第3期までの各プログラムの年度別実施回数を表4に示す。

表4 年度別実施プログラム一覧

プログラム名	第1期			第2期			第3期		
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
1. FD基礎プログラム	1	1	1	1	1	1			
2. 全学共通教育担当教員初任者研修							1		
3. 教育力開発基礎プログラム								1	1
4. FDリーダークンワークショップ		1	1	1	1	1			
5. FDファシリテーター養成研修							1	1	1
6. FD応用プログラム	4	5	10						
7. 授業コンサルテーション・授業研究会				8	8	13	2	4	18
8. 授業エキスパート・ワークショップ	1								
9. FD推進ハンドブック作成WS		1	1						
10. FDラウンドテーブル				4	4	4	4		
11. FD・SDラウンドテーブル								4	
12. FD・SDセミナー									4
13. FDとくどくセミナー							6	4	
14. FDシンポジウム	1	2	2						
15. 大学教育カンファレンス				1	1	1	1		
16. 大学教育カンファレンス in 徳島								1	1

4. F Dプログラム・参加者管理システム（F Dデータベース）について

4.1. 目的・意義

F Dプログラム・参加者管理システムは、将来的に予想される次のような活用を目指して作成した。

①参加・修了証書発行

現在、学長名で全学F D参加・修了証書を発行しているが、この作業の省力化・迅速化が可能になる。

②報告書や広報等作成資料として

外部資金獲得や事業実施報告書作成の際、資料として活用できる。

③F Dスタッフ間の情報共有のため

スタッフ間の効果的連携のため、情報を共有する。

④教育系ポートフォリオ作成資料の提供

今後予想されるポートフォリオ導入の際、当該教員の求めに応じてその資料を提供できる。

⑤当該教員からの研修履歴問い合わせに対して資料提供

昇任や転出等にして、当該教員の求めに応じて研修履歴を提供する。

⑥各教員の研修ステップ、レベルの確認

当該教員の研修履歴を、国立教育政策研究所と「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）」で開発中の「F Dマップ」と対照させることで確認する。

⑦研修効果検証

今後のF D効果検証方法開発をにらみながら、研修参加者数などの定量的及び研修参加者の変容などの定性的効果検証に活用する。

⑧F Dコミュニティ形成支援

研修受講者名簿を活用することによって、学部・学科内及び学部間、さらには大学間等のF Dコミュニティ形成を支援する。

4.2. システムの構成

F Dプログラム・参加者管理システムのシステム構成及び外観をそれぞれ表5、表6及び図1に示す。

表5 ハードウェア構成

種類	メーカー
パソコン本体	DELL PowerEdge R200
ハードディスク	500GB
CPU	Core2Duo E7400(2.6GHz)
メモリー	4GB

表6 ソフトウェア構成

種類	仕様
OS	CentOS 5.2
WEB サーバ	Apache 2.2.11
データベース	MySQL 5.1.30
開発言語	PHP 5.2.8



図1 ハードウェア外観

4.3. キュリティ対策

データの漏洩防止等の安全性確保のために、次の対策を講じた。

- ① I Dとパスワードを発行し、大学開放実践センターのF D担当教員のみアクセス可能とした。
- ②大学開放実践センター以外のネットワークからはアクセス出来ない設定とした。
- ③ユーザー毎に利用権限を設けた。詳細を表7に示す。

表7 利用権限

権限レベル	内容
管理権限	データの更新及びアカウント・パスワードの発行、参加・修了証書の発行
参照権限	データの閲覧のみ可能
権限なし	データの閲覧不可

4.4. システムの概要

前記「2.2 全学F D推進プログラム第1期計画（平成14年度～平成16年度）」、「2.3 全学F D推進プログラム第2期計画（平成17年度～平成19年度）」、「2.4 徳島大学F D推進プログラム第3期計画（平成20年度～平成22年度）」で実施し

たプログラムの内容、参加者、講師及び実施スタッフのデータをシステムに登録し、システムに以下の機能を持たせた。

- ①FDプログラムの内容、参加人数、写真、データの閲覧
- ②FDプログラム参加者のプログラム参加履歴及び連絡先の閲覧
- ③参加・修了証書の発行

4.5. システムの仕様

4.5.1. コンテンツメニュー

まず、パソコンの Web ブラウザからシステムにアクセスし、ログインフォームでアカウントとパスワードを入力する。次にログインボタンをクリックすると、全学FD推進プログラムの内容、参加人数の閲覧やチラシ等データをダウンロードできる「FDプログラム管理・閲覧」と、FDプログラム参加者一覧、連絡先、FDプログラム参加履歴等を閲覧できる「参加者管理・閲覧」のコンテンツメニューが表示される (図2)。

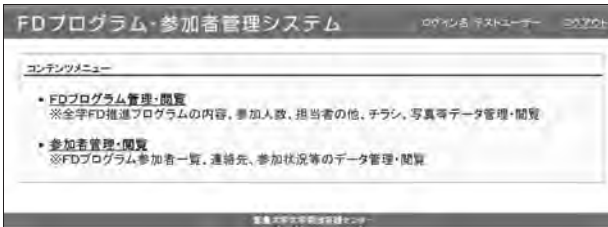


図2 コンテンツメニュー画面

(1) FDプログラム管理・閲覧

プログラム管理一覧は、年度別で実施された全学FDのプログラム名と年間開催数が閲覧できる一覧表である。収録したデータを表8に示す。

ここで表示される項目は、「カテゴリ名、年度、全学FDのプログラム名、年間開催数、状態」である。検索ボックスにキーワードを入力し検索ボタンをクリックすると、登録されているプログラムの内容、備考、テーマ名等からデータを検索して表示する機能や、年度別に全学FDのプログラム名データを絞り込む機能も設定した。さらに、「参加者総数一覧、開催プログラム一覧、プログラムの開催一覧、参加証書等詳細」のリンクも設定した (図3)。

次に、リンク先の各ページで表示される項目等について紹介する。

参加者総数一覧は、年度別で実施された全学FDのプログラム名と参加者総数が閲覧できる一覧表である。ここで表示される項目は、「年度、プログラム名、司会・座長、参加、発表、講師、運営スタッフ、オブザーバ、総数」で、CSV出力のクリックによって、一括で参加者総数のデータをダウンロードできる (図4)。

開催プログラム一覧は、実施されたFDプログラム全てのテーマ名等を年度別で閲覧できる一覧表である。ここで表示される項目は、「年度、開催名、テーマ名等、担当者、開催日、状態」である。また、プログラムの参加人数、参加者名等が閲覧できる「詳細」のリンクを設定した (図5)。

プログラムの開催一覧は、全学FDのプログラムの開催日、開催名、参加種別人数、参加総数を閲覧できる一覧表である。ここで表示される項目は、「開催日、開催名、テーマ名等、担当者、講師、司会・座長、参加、発表、運営スタッフ、オブザーバ、総数」である。また、プログラムの参加人数、参加者名等が閲覧できる「詳細閲覧」のリンクを設定した (図6)。

参加証書等詳細は、参加証書発行の有無や証書の文書タイプ等を閲覧することができる一覧表である。ここで表示される項目は、「公開設定、年度、開催期間、記号、カテゴリ名、プログラム名、参照URL、内容、備考、参加証書・修了証書の設定」である。参加証書・修了証書の設定欄には、「種別、発行の有無、文書のタイプ、証書発行日付」の項目が記載されている (図7)。

開催詳細は、プログラムのテーマ名、内容、参加者を閲覧できる一覧表である。ここで表示される項目は、「公開設定、開催名、テーマ名等、開催日、内容、担当者、参加人数、講師 (話題提供)、司会・座長、参加、発表、運営スタッフ、オブザーバ、添付ファイル1、添付ファイル2、添付ファイル3、添付ファイル4、添付ファイル5」である。また、個人名には、プログラムの参加履歴、連絡先等を確認できる「参加者管理・閲覧」のリンクを設定した (図8)。収録したデータを表9に示す。

表8 FDプログラム管理のテーブル

フィールド名	データ型	サイズ	備考
公開設定	INT	10 文字	入力値 0=非公開 入力値 1=公開
年度	TEXT	65, 535 文字	
開催期間	DATETIME		
記号	TEXT	65, 535 文字	参加証書・修了証書の記号
カテゴリ名	INT	11 文字	入力値 1=講演会・セミナー 入力値 2=ワークショップ・合宿研修
参照 URL	TEXT	65, 535 文字	
内容	TEXT	65, 535 文字	
備考	TEXT	65, 535 文字	
参加証書・修了証書			
発行の有無	INT	11 文字	入力値 0=無 入力値 1=有
証書の内容	INT	11 文字	
証書発行日付	DATETIME		

FDプログラム・参加者管理システム

ログイン名: テストユーザー ログアウト

FDプログラム管理・閲覧 参加者管理・閲覧

TOP > プログラム管理 > 一覧

参加者総数一覧 / 開催プログラム一覧

年度: [] プログラム名: []

キーワード: [] 検索 [リセット]

カテゴリ名	年度	全学FD推進プログラム名	年間開催数	状態	
講演会・セミナー	平成22年度	大学教育カンファレンス in 徳島(※SPOD)	1	プログラムの開催一覧	有効 参加証書等詳細
講演会・セミナー	平成22年度	FD・SDセミナー(※SPOD)	3	プログラムの開催一覧	有効 参加証書等詳細
講演会・セミナー	平成22年度	授業コンサルテーション・授業研究会	11	プログラムの開催一覧	有効 参加証書等詳細
ワークショップ・合宿研修	平成22年度	教育力開発基礎プログラム(※SPOD)	1	プログラムの開催一覧	有効 参加証書等詳細
ワークショップ・合宿研修	平成22年度	FDファシリテーター養成研修(※SPOD東四国 徳島、香川)	1	プログラムの開催一覧	有効 参加証書等詳細
講演会・セミナー	平成21年度	FD・SDラウンドテーブル	4	プログラムの開催一覧	有効 参加証書等詳細
講演会・セミナー	平成21年度	大学教育カンファレンス in 徳島(※SPOD)	1	プログラムの開催一覧	有効 参加証書等詳細

図3 プログラム管理一覧

FDプログラム・参加者管理システム

ログイン名: テストユーザー ログアウト

FDプログラム管理・閲覧 参加者管理・閲覧

TOP > プログラム管理 > 参加者総数一覧

CSV出力

年度	プログラム名	司会・座長	参加	発表	講師	運営スタッフ	オブザーバ	総数
平成22年度	大学教育カンファレンス in 徳島(※SPOD)	0	0	0	0	0	0	0
平成22年度	FD・SDセミナー(※SPOD)	3	54	0	3	0	0	60
平成22年度	授業コンサルテーション・授業研究会	11	60	0	0	0	0	71
平成22年度	教育力開発基礎プログラム(※SPOD)	0	31	0	0	14	0	45
平成22年度	FDファシリテーター養成研修(※SPOD東四国: 徳島、香川)	0	19	0	3	12	0	34
平成21年度	FD・SDラウンドテーブル	0	40	0	7	0	0	47
平成21年度	大学教育カンファレンス in 徳島(※SPOD)	8	64	26	1	0	0	99
平成21年度	FDとくどくセミナー(※SPOD)	0	52	0	0	0	0	52

図4 参加者総数一覧

FDプログラム・参加者管理システム ログイン名: テストユーザー ログアウト

FDプログラム管理・閲覧 参加者管理・閲覧

TOP > プログラム管理 > 開催プログラム一覧

年度: プログラム名: 開催名:

キーワード:

※検索は、検索条件のすべてが一致するプログラムを抽出し、検索結果の表示順は、検索条件の優先順位順です。

◀ 1 2 3 4 5 6 7 ▶

年度	開催名	テーマ名等	担当者	開催日	状態
平成22年度	大学教育カンファレンス in 徳島		川野卓二	2011/01/21	有効 詳細
平成22年度	第1回FD-SDセミナー	徳島大学でICTを活用した授業を始めるためには	川野卓二	2010/05/14	有効 詳細
平成22年度	第2回FD-SDセミナー	聴衆応答システム(クリッカー)の実践入門	川野卓二	2010/07/02	有効 詳細

図5 開催プログラム一覧

FDプログラム・参加者管理システム ログイン名: テストユーザー ログアウト

FDプログラム管理・閲覧 参加者管理・閲覧

TOP > プログラム管理 > 平成21年度 > FDととくセミナー(※SPOD) > 開催一覧

カテゴリ名: 講演会・セミナー プログラム名: FDととくセミナー(※SPOD)

開催日	開催名	テーマ名等	担当者	講師	司会・産長	参加	発表	運営スタッフ	オブザーバ	総数	状態
2009/09/28	第1回FDととくセミナー	Significant Learning (意義ある学習)を目標	川野卓二	0	0	13	0	0	0	13	有効 詳細閲覧
2009/09/04	第2回FDととくセミナー	学習意欲を高める工夫を考える	川野卓二	0	0	8	0	0	0	8	有効 詳細閲覧

図6 プログラムの開催一覧

FDプログラム・参加者管理システム ログイン名: テストユーザー ログアウト

FDプログラム管理・閲覧 参加者管理・閲覧

TOP > プログラム管理 > 詳細

公開設定: 公開

年度: 平成22年度

開催期間: 2010-08-29 ~ 2010-08-29 迄

記号: B ※参加証書・修了証書発行

カテゴリ名: ワークショップ・各種研修

プログラム名: 新着公開講座FDプログラム(※SPOD)

公開URL:

内容:

- 【目的】講師または聴衆双方が互いに学びあう機会(場)を提供する。*講師からの授業者(聴衆)の動機、SPOD実施の意義等、*聴衆からの学び(質問、時間に応じた発言)など、*双方の教育の場(場)での学び(質問)の動機、*SPOD実施の意義等
- 【開催日時】平成22年8月上旬
- 【場所】授業研究インテリジェントラボ(大学開放実践センター3階)
- 【テーマ】*聴衆からの学び(質問)の動機、*双方の教育の場(場)での学び(質問)の動機、*SPOD実施の意義等
- 【講師】*聴衆からの学び(質問)の動機、*双方の教育の場(場)での学び(質問)の動機、*SPOD実施の意義等
- 【講師】*聴衆からの学び(質問)の動機、*双方の教育の場(場)での学び(質問)の動機、*SPOD実施の意義等

備考:

参加証書・修了証書の発行: 発行の有無: 文書のタイプ: 証書発行日付:

図7 参加証書等詳細

FDプログラム・参加者管理システム ログイン名: テストユーザー ログアウト

FDプログラム管理・閲覧 参加者管理・閲覧

TOP > プログラム管理 > 平成21年度 > FD-SDラウンドテーブル > 開催詳細

公開設定	公開
開催名	第1回FD-SDラウンドテーブル
テーマ名等	「ティーチングライフ」調査とこれからのFD活動
開催日	2009-05-28 ~ 2009-05-28 迄
内容	【日時】2009年5月28日(木) 15:00~17:00 【場所】授業研究インテリジェントラボ(大学開放実践センター3階) 【テーマ】「ティーチングライフ」調査とこれからのFD活動 【講師提供】川野卓二先生、香川順子先生、田中さやか先生、吉田博先生(徳島大学大学開放実践センター) 【内容】 昨年実施した、本学で学士課程の授業を担当している教員を対象とした「平成20年度 教員の教育に関する意識調査」(以下「調査」)の調査結果を踏まえ、本学の今後の教育改善やFD活動へつなげる話し合いの場を持った。
担当者	川野卓二
参加人数	講師 4人 司会者 0人 参加 7人 発表 0人 運営スタッフ 0人 オブザーバ 0人 総数 11人

図8 開催詳細

表9 FDプログラム開催詳細のテーブル

フィールド名	データ型	サイズ	備考
公開設定	INT	10 文字	入力値 0=非公開 入力値 1=公開
開催名	TEXT	65, 535 文字	
テーマ等	TEXT	65, 535 文字	
開催日	DATETIME		
内容	TEXT	65, 535 文字	
担当者	TEXT	65, 535 文字	
講師名 (話題提供) 1	INT	11 文字	選択したユーザーの ID を開催の ID と関連付けて別テーブルに保存
講師名 (話題提供) 2	TEXT	65, 535 文字	DB に登録されていない講師名
講師人数	INT	11 文字	
司会・座長名	INT	11 文字	「講師」と同じ
参加者名 1	INT	11 文字	「講師」と同じ
参加者名 2	TEXT	65, 535 文字	DB に登録されていない参加者名
参加人数	INT	11 文字	
発表者名 1	INT	11 文字	「講師」と同じ
発表者名 2	TEXT	65, 535 文字	DB に登録されていない発表者名
発表者人数	INT	11 文字	
運営スタッフ名 1	INT	11 文字	「講師」と同じ
運営スタッフ名 2	TEXT	65, 535 文字	DB に登録されていない運営スタッフ名
運営スタッフ人数	INT	11 文字	
オブザーバ名 1	INT	11 文字	「講師」と同じ
オブザーバ名 2	TEXT	65, 535 文字	DB に登録されていないオブザーバ名
オブザーバ人数	INT	11 文字	
添付ファイルの説明文	TEXT	65, 535 文字	
添付ファイルの参照	TEXT	65, 535 文字	ファイル名を保存
添付ファイルのファイル名	TEXT	65, 535 文字	「参照」と同じフィールドに保存

(2) 参加者管理・閲覧

参加者管理一覧は、過去に全学FDのプログラムに参加履歴のある個人の氏名、所属が閲覧できる一覧表である。収録した参加者管理（個人）データ及び入力画面を、それぞれ表 10 及び図 9 に示す。

ここで表示される項目は、「ユーザー ID、氏名、職名、学部、学科、メールアドレス」である。検索ボックスにキーワードを入力すると、登録されている氏名、連絡先、電話番号等のデータを検索して表示する機能や、学部、学科、職名からデータを絞り込む機能も設定した。また、個人のプログラム参加履歴、連絡先等を確認するための「詳細」のリンクも設定した。

さらに「参加状況」には、参加したプログラムの開催日、開催名等を閲覧するための「詳細な参加状況はこちら」のリンクを設定した。ここで表示される項目は、「年度、開催日、開催名、参加種

別」で、CSV 出力をクリックすると、一括で上記参加履歴データをダウンロードすることができる。

例えば、A氏のFDプログラム参加履歴を検索する場合は、まず「参加者管理・閲覧」をクリックする。次に、検索ボックスに「A」を入力し検索ボタンをクリックするとA氏のデータが表示される。次に詳細をクリックすれば、A氏のFDプログラム参加履歴を表示することができる。

4.5.2. 管理者の機能

プログラムデータの登録・更新や、アカウント・パスワードの発行ができる管理者の機能を設定した。ここではその概略を示す。

(1) マスター管理メニュー

部局名の登録・修正、プルダウンメニューで表示される順番を設定するための「部局管理」とアカウントとパスワードを設定する「管理者管理」のマスター管理メニューを設定した。

表 10 参加者管理 (個人) のテーブル

フィールド名	データ型	サイズ	備考
ステータス	INT	11 文字	入力値=1 現職 入力値=2 期限付き不在 入力値=3 学外
名前 (よみ)	TEXT	65, 535 文字	NOT NULL
名前 (漢字)	TEXT	65, 535 文字	NOT NULL
所属: 学部	INT	11 文字	学部の ID を保存
所属: 学科	INT	11 文字	学科の ID を保存
所属: テキスト入力	TEXT	65, 535 文字	
職名	INT	11 文字	職業のコードを保存
内線番号	TEXT	65, 535 文字	
電話番号	TEXT	65, 535 文字	
メールアドレス	TEXT	65, 535 文字	
備考	TEXT	65, 535 文字	
登録日	DATETIME		
更新日	DATETIME		



図 9 個人データ入力画面

(2) 設定メニュー

「参加者管理・閲覧」の中の参加状況に表示される期間を設定するため「参加状況表示期間設定」と、参加・修了証書を発行する際に必要な「学長名」「副学長名」のメニューを設定した。

5. まとめと今後の構想

今年度の事業としては、平成 14 年度から 22 年度までの、徳島大学全学 FD のプログラム、参加者、講師、及びスタッフについての情報をデータベース化した。このようなデータベースは、他大学等に類をみないものであり、前述の「データベース作成の目的・意義」と合わせてみると、非常に意義あるものと考えられる。

しかし、データベースの一層の充実と活用を考えると、次の 2 点を引き続き実施する必要がある。

① データの継続的蓄積

FD は、大学のポリシーに基づいた戦略に添って継続的に実施することが大事である。徳島大学 FD の第 4 期計画 (平成 23 (2011) 年度～25 (2013) 年度) が、平成 22 年 11 月 17 日の大学教育委員会で決定された。それにもなつて、データベースも最新情報を入れ込んで行かなければならない。

② FD ライブラリーの作成と活用

徳島大学 FD 推進プログラム第 1 期から第 3 期までのたくさんの映像資料が蓄積されているが、これを DVD 化し、FD ライブラリーを作成し、

全学FD、部局FD、徳島県下FDネットワーク等で活用出来るようにしなければならない。

また、ブリガムヤング大学 (BYU) を参考に、さらに有効活用の道を探る必要がある。

注

- 1) 徳島大学FD専門委員会: 徳島大学FDの歴史, 2008.
- 2) FDホームページ「徳島大学教育の質向上を目指した教職員ネットワーク」 < URL : <http://www.cue.tokushima-u.ac.jp/fd/> > に掲載
- 3) 徳島大学FD専門委員会規則

[資料]

ブリガムヤング大学 (BYU) のFDデータベースについて

1. 概要

FDプログラムを実施するためには多くの時間と労力がかかるが、しっかりしたFDデータベースを作成・管理・活用することによって、効率的、効果的にFDを実施できる。

この度、徳島大学において作成したデータベースは、Professional and Organizational Development Network in Higher Education (POD) ネットワークの2008年次大会でBrigham Young大学のBirch、およびNew Mexico州立大学 (NMSU) のGrayによるセッションで紹介されたBYUの実例を参考にした。BYUのデータベースは、Birchが自らのサバティカルの期間を利用してFileMaker Proと呼ばれるソフトを用いて作成したものである。

2. FDデータベースの利用方法

作成したデータベースは、記録保存とイベント管理の大きく2つの目的で利用することができる。具体的にどのように利用することができるのか、Birch & Gray (2009) は、POD Networkの年刊誌「To Improve the Academy」の第27巻の中で、BYUやNMSUで実際に行われている次の利用方法を例示している。今回、徳島大学で作成したデータベースは、例示されたすべての方法をカバーしてはいないが、このリストにより今後の開発の方向性を知ることができる。

2.1. 記録保存

①関連があるすべての有用なデータを記録する。

少なくともそれぞれのプログラム名、活動概要、日時、参加者名を記録する。また、BYUでは、学習目標、実際の活動の詳細と評価、広報資料、配布資料、費用、新規の工夫、将来計画などをデータとして含めている。さらに、活動に関連があるすべての人物に関する情報、たとえば、参加者、共催者、発表者、活動管理者、学生補助、被招待者およびその中で何らかの理由で参加できなかった者の名前などを含めることができる。

言うまでもなく、データベースの信頼性確保のため、最初の入力時に情報を正確に入力しなければならない。

②必要なデータをすばやく見つける。

記憶に頼ることなく大量のデータを一箇所に蓄積することができ、また、検索機能により必要なデータをすばやく見つけることができる。

③評価や、戦略計画、報告のためにデータをまとめる。

よく設計されたデータベースは、ファカルティセンターが行っている活動を分析したり、その効果を評価し報告したりする際に威力を発揮する。また、学内全体に対してどのような援助が来ているかを示したり、どの学部や学科に対する援助が少ないのか、費用対効果が高いプログラムはどれなのかをはっきりさせることができる。

2.2. イベント管理

①イベント運営に必要な詳細な情報を追跡記録する。

データベースは、プロジェクト管理ツールとしても使うことができる。BYUでは、ファカルティセンターが実施する複雑なプロジェクトのためのto-doリストを整理して保存している。何がなされなければならないのか。誰がそれをする責任があるのか。いつまでにそれが達成されなければならないのかなど。細かく明示されたそれぞれの仕事が終わると印をつけておく。関係者が同じデータベースにアクセスし確認できるようになっているので、何が終わり、まだ何がなされる必要があるのかをチームの全員が知ることができる。

②通信およびその履歴を管理する。

スタッフや参加者、クライアント間でやりとりされる通信量は膨大なものになる。例えば、ワークショップへの招待状や参加登録の確認、参加予約や出席へのリマインド、そしてフィードバックの提出依頼などがある。BYUでは、使用された文書テキストをデータベースに保存し、次回該当する箇所を変更するだけで利用できるようにしている。

③オンラインによる参加登録が行えるようにする。

NMSUではデータベースと連動して駆動するオンライン登録システムを立ち上げている。NMSUでは、1年間に3から4のワークショップを実施し、各回平均約700人が登録するため、登録手続きをオンライン化し、入力作業を参加者自身が行うことによって事務作業を軽減し、より早く正確に作業を行っている。

④名札やその他必要な資料をカスタマイズする。

参加者の登録が完了すると、そのデータベースを使って、名札を容易に作成することができる。参加者への配布資料や証明書、感謝ノート、バインダーのラベルなどをカスタマイズすることも可能である。

⑤写真を使って名前を覚える。

データベースに写真を追加しておくことで、プログラムへの参加者名や顔、その他必要な情報を覚えることが容易になる。ほとんどの大学では、職員のID作成時にデジタル写真を撮っていると思われるのでそれを利用することができる。

⑥会員制度を創設する。

NMSUでは、FDプログラムへの参加を何らかの形で認知し評価するための方策として会員制度を導入した。ファカルティセンターが開催する活動に一定時間以上参加することで会員として認める制度であり、毎年、該当者を表彰している。

(Basic 会員：10時間以上参加、Sustaining 会員：20時間以上参加、Distinguished 会員：40時間以上参加)

Center. In L. B. Nilson (Ed.). *To Improve the Academy*. San Francisco, CA : Jossey-Bass.

参考文献

Birch, A. Jane & Gray, Tara (2009) Ten Ways to Use a Relational Database at a Faculty Development